

【訂正】

Vol. 23, No. 9 に載りました“日本気象学会昭和51年 秋季大会プログラム”に誤りがありましたので、お詫びして下記の通り訂正させていただきます。

誤 正

- 519ページ 秋季大会行事予定表の中段、関西支部年会→中部支部年会
 524ページ 大会第2日第1会場の座長、近藤 純正→近藤 純正
 527ページ 大会第3日第2会場の座長、和田 美鈴→松野 太郎

「天気」投稿規定 天気編集委員会

- 「天気」は日本気象学会の機関誌で、年12回発行される。内容は気象に関係ある(1)論文・短報(2)解説および総合報告(3)シンポジウム記事(4)学会だより(5)通信欄(討論意見)などである。
- 投稿資格：原則として本会会員とする。
- 論文の受理：論文は未発表の原著論文に限る。短報は速報性を重視し小論文のほか他雑誌に投稿した論文は要約、未完成ではあるがとくに速報を要する研究成果の概要等とする。通信欄は会員の学会に対する要望・意見、論文に対する質疑・意見のほか気象に関係ある諸問題についての投稿とする。論文等は東京都千代田区大手町1-3-4、気象庁内、日本気象学会天気編集委員長河村 武宛に送付し、天気編集委員会が受理した日をもって論文受理日とする。
- 編集：「天気」の編集は天気編集委員会で行なう。編集委員会は事情により原稿の字句の加除訂正を行ない、あるいは著者に改稿を求め、また内容の如何によっては原稿を受理しないことがある。印刷の順序は原則として受理日順とするが、編集の都合によってはその順序を変えることがある。
- 執筆要領
 - 原稿の長さ：論文は原稿用紙に和文で横書きにし、長さは図表を含め、原則として印刷頁で8頁以内とする。短報・通信欄は原則として1頁以内とする。(400字詰原稿用紙約5.5枚が印刷1頁に相当)。なお投稿の際は原稿とともに、送り状を付け、コピーも同封すること。
 - 表題：論文、短報、解説のはじめに題名(英訳付)、著者名(ローマ字付)所属機関名を付記する
 - 要旨：論文には和文400字以内の要旨をつける。
 - 図表：原図をトレーシングペーパー、白紙または方眼紙(青)に墨で明瞭に書き、図番号をつけ、まとめて原稿の末尾に重ねる、図番号、表題および説明文(いずれも和文)は別に原稿用紙に記して本文の末尾に付ける。原図の大きさは刷上りの3倍以内とし、線の太さ、文字の大きさは、印刷の際の縮尺を考慮してトレースすること。図

の掲載場所を指示するため、本文中でその図が出てくる箇所の右横欄外に「第1図挿入」などと朱書すること。表も番号および表題をつける。なお、表は本文中に挿入して書いてもよい。図表の番号は第1図、第2表などとする。詳細は本誌16巻4号を参照のこと。

- ホ) 数式は上下に一行ずつあけて明瞭に書くこと。
 ヘ) 脚注はなるべく用いないこと。
 ト) 文献：著者名のアルファベット順に並べ、論文の末尾につける。次の例に示すように、論文の場合は著者、年、題名、誌名、頁の順に並べ、単行本の場合は、著者、発行年、書名、出版社、引用頁の順に記す
 Reynolds, S.E., M. Brook and M.F. Gourley, 1957: Thunderstorm charge separation, J. Meteor., 14 426-436.
 山本義一, 1959: 大気輻射学, 岩波書店, 134-135
 吉田順五, 1959: 気象と積雪, 天気, 6, 191-194
 本文中での引用の仕方は次の例による。
 ……応力を測定した研究がある(Dorm, 1953)
 ここで Munk (1947) のいう臨界風速について…
- 別刷：論文、短報、解説、総合報告、シンポジウム記事の別刷は30部まで無償、それ以上は実費とする。要求部数を原稿提出時に申し込むこと

天気編集委員

編集委員長 河村 武(理事)
 編集委員 朝倉 正(理事)・犬飼章治・岡本利次・清水喜允・住 明正
 関根 勇八・竹田 厚・滝川雄壮
 巽 保夫・田中正之・樋口敬二
 廣田 勇・本母利広・中山 章
 新田 尚・三谷 一郎

編集書記 小平百合子
 地区編集委員

北海道 八田 琢哉・菊地勝弘
 東北 宇田川和夫・田中正之
 関東 丸山栄三
 関西 川鍋安次・中島暢太郎
 九州 藤尾勝巳・小島隆義
 沖縄 糸 数昌丈